三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

日刊 動労千葉

80. 5.25

NO. 全国版 53

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二－八（動力車会館）

（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

『再建情報』No.25.26

追いつめられてまたもデマ宣伝！

全国の動労組合員のみなさん。

動労千葉の不当処分粉砕闘争への総決起という事態に焦った「本部」反動分子は、「千葉地本再建情報」№25・26（一九八〇・五・一四）をまたしてもデマ宣伝のために発行しました。これは例によって、あまりにもデタラメな内容の故に動労千葉千四百名組合員はもとより、国労や当局からさえもの笑いのタネにされています。

動労千葉の総決起に対する悲鳴

デマ宣伝は、第一に、動労千葉の総決起と、反対同盟やジェット闘争支援共闘会議をはじめとする広範な支援・連帯の結集に対する悲鳴であり、ブルジョア新聞にまで「なぐり込み」と書かれたことに対する消耗から、「動労千葉の組合員が言っている」などとデッチ上げて、あたかも動労千葉が暴力をふるったかのように印象づけようとしていることです。（№25）

しかし、その具体的中味は何も書けず、それがかりか、自らが投石と青竹を持って突っ込んだことと、「本部派」の組合員でさえ「庁舎側の動員者を立たせ、線路側の動員者を座らせて布袋やポケットへ石を入れたのはまずかった」と言わざるを得ないことなど、この間「日刊動労千葉」等で指摘された「事実」にまともに立ち向うことさえできない支離滅裂なものなのです。

デマ宣伝は、第二に、動労千葉が断固たる不当処分粉砕、「津田沼特別班」解体の闘いに総決起する体制をうち固めたことに恐怖し、自分の都合のよいように動労千葉の戦術を予想し、自らが夢想する戦術にケチつけをするというマスターベーションを行い、「津田沼特別班は最初から存在しない」などと逃げ出していることです。（№25）

自ら闘うことをせず「冬の時代」と「安定宣言」の中へ逃げ込み、他労組の闘いへのケチツケをもって「闘った」かのような幻想にひたることを得意とする「本部」反動分子の習性をマル出しにすることは勝手ですが、動労千葉は「あらゆる戦術を行使する決意と闘争力を堅持している」という事実だけを明らかにすれば充分でしょう。自ら当局に通告し、裏切り者・斉藤や革マルスパイ・鵜田が広言していた「特別班」が最初からなかったなどと言うのは論外です。

「本部」反動分子の墓穴を堀る「決定的証拠」

デマ宣伝の第三は、「再び『ジェット闘争』の裏切り……」と称して、当局文書をもらい受けて「決定的証拠」と称していることです。（№26）

この人事課長の「事務連絡」なるものは、国労がジェット燃料輸送に当って一貫して「条件闘争」をしてきた一環として当局に要求し、ジェット輸送に関連する列車係にだけ支給された「褒賞品」に関するものであり、動労千葉はジェット燃料貨車輸送反対闘争に関する要求対置の国労方針を批判し、労農連帯をはじめとする「四つの視点と二つの戦略」を確立して闘い抜いてきたことに踏まえても「褒賞品などということは認められない」ということを機関の中で確認し拒否してきた経過があります。従って、動労千葉が「褒賞品」を要求したとか、私物化したとかいうデマが通用するはずもないことははっきりしているわけです。もうひとつはっきりさせておかなければならないことは、この人事課長名の「事務連絡」が出された時点では、「本部」反動分子も「小屋原交渉団」なるものをデッチ上げ動労千葉の団体交渉の妨害をしていた以上、この「事務連絡」について、当局に対してどういう対応をしたのかということです。そのことをデマ情報は何も触れていませんが「当局から相手にされなかった」とでも言うのでしょうか。

このように、デマのための「決定的証拠」と称するものは、「本部」反動分子の墓穴を堀る以外のなにものでもないのです。

全国の動労組合員のみなさん。

このようなデマと暴力の「本部」反動分子を糾弾し、動労千葉とともに、動労大改革、三十五万人体制粉砕、三里塚・ジェット闘争勝利へ決起しようではありませんか。